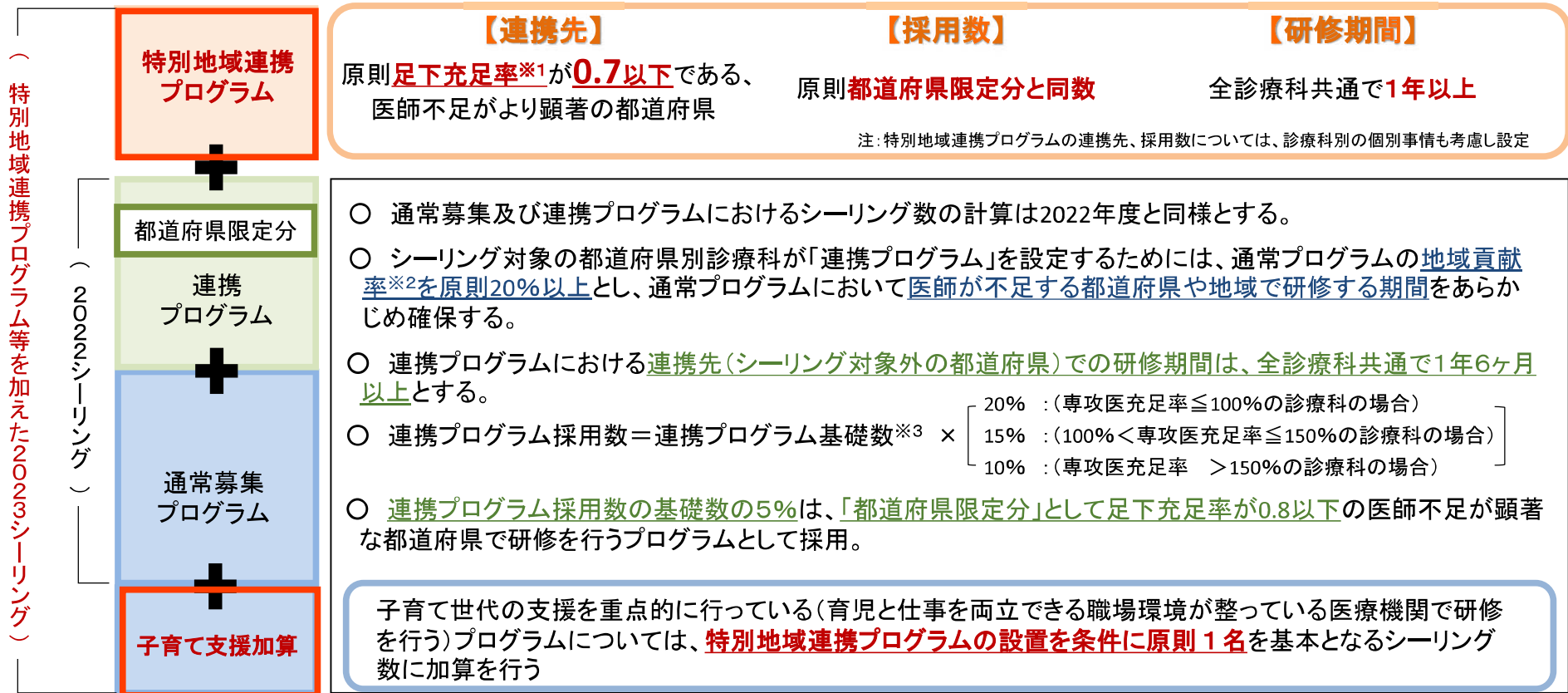


2023年度専攻医募集におけるシーリング(案)の基本的な考え方

- シーリングにより、都市部周辺で専攻医が増加する効果が現れているものの、医師不足の東北地方等での地域偏在是正効果は限定的であることから、**足下医師充足率が低い都道府県との連携プログラムを別途設ける。**
- また、育児介護休業法改正附帯決議への対応の観点から、**子育て世代の支援を重点的に行っているプログラムについては、上記連携プログラムの設置を条件に、基本となるシーリング数に加算を行う。**



医師専門研修部会での「特別地域連携プログラム」「子育て支援加算」等に関する議論を踏まえた、都道府県内の医師確保対策や偏在対策に対する影響について

1 新規加算について

(1) 特別地域連携プログラム

シーリング地域のプログラムを対象に、医師充足率0.7以下の地域の施設と連携を組むことが可能
(医師充足率0.7以下は原則2018年度が適用、研修期間は1年以上)

(2) 子育て支援加算

子育て世代の支援を重点的に行っているプログラムで、上記(1)の特別地域連携プログラムの設定を条件に認められる加算

2 都道府県内の医師確保対策や偏在対策に対する影響について

【福岡県の場合（内科）】

シーリング数(118) + 連携プログラム(29) + 特別地域連携プログラム(15) + 子育て支援加算(15) = 177人
(参考：R4採用数 150人)

【大分県の場合】

(1) シーリング対象の診療科はないため、上記加算は設定できない。

(2) 他県のシーリング対象地域が本県の耳鼻咽喉科（足下充足率0.67）を連携施設に設定すると、最低1年、本県で研修が行われることとなる。

※足下充足率0.7以下の診療科は、本県では耳鼻咽喉科のみ